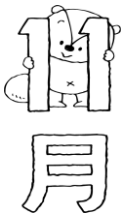

園だより

令和６年 11月１日
佛教大学附属こども園

「仏教保育 11月のねらい」
精進努力

「失敗の機会を奪わない」

園長 佐藤和順

先月に引き続き、佛教大学教育学部幼児教育学科 1 年生の授業の課題として提出された、園だよりの今月のことばを紹介させていただきます。西田一鞠さんの「今月のことば」です。

日中は暖かく穏やかで、空は澄み渡り秋を感じる好季節になりました。園外保育を通して、どんぐりを拾ったり、自然に触れたりと子どもたちはそれぞれの秋を楽しんでいます。

今月の保育の目標は「精進努力（しょうじんどりょく）最後までやりとげよう」です。精進とは精魂込めて物事に取り組むこと。精進努力とは、心を込めて一生懸命努力するということです。途中でくじけては、どのような小さなことでも実りません。すべてを終わりまで粘り強くやり遂げることを、子どものときから習慣づけることが大切だということです。

「精進努力」は難しいと思うかもしれません。しかし、案外身近で行われているものかもしれません。折り紙で作りたいものがあり先生に教えてもらうがなかなかうまく作れなかった。でも何回も作り、やっと自分が思っているものができたこと。うんていを毎日練習して、やっと最後までできたこと。このような積み重ねが、失敗してもあきらめず何度も挑戦する力となり、達成した時のうれしさを感じることができるのです。何事も失敗することが大切なのです。私たち大人は「失敗しそう」「このやり方は違うな」と思うと、ついつい注意をしたり、子どもが考えるより前に成功方法を教えてしまいます。しかし、それは子どもが「何度失敗してもやり直せる」ということを学べるチャンスを奪うことになります。私たち大人には、子どもが挑戦している姿を見たら、一歩後ろに立ち見守っていくという態度も必要です。そして結果に関係なく、結果に至るまでの頑張りをほめてあげることも大切なのです。

思いやり、粘り強さ、積極性、自己肯定感など「精進努力」を通して身につける力は、園で大切にしている非認知能力です。非認知能力は人格形成の根っこに当たる部分であり、しっかり根が張っていないと、その後に芽がでて、茎が育ち、枝や花や葉が十分に育つことができません。幼児期に「精進努力」することが、子どもの後伸びする力となるのです。

子どもに言うばかりではなく大人である私たちも最後までやり遂げる姿、継続して取り組む姿を見せることができたら素晴らしいなと思います。読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋。秋はいろいろなことに取り組む好季節。自分なりの目標を掲げて日々「精進努力」したいものです。